

月刊島民

中之島

Vol.17 2009 12/1

橋を渡る人の「街事情」マガジン

もっと人生に公会堂を。

中央



ナカノシマ大学

畑 耕一郎

(社)調理師専門学校日本料理技術顧問

「大阪の味、京都の味」

申し込み受付中!



大阪のシンボルを蘇らせた建築家 橋本健治さん

今から10年前、大阪中央公会堂の保存再生を手掛けることになった時、建築家の橋本健治さんは「運命」を感じたという。「建築家というのは常に新しさを求めるもの。歴史的建築の価値は認めても、参考にはならないと若い頃は思っていたけれど」。

20代の頃、先輩の誘いで関わった芦屋のヨドコウ迎賓館の保存。渦中で体験した阪神・淡路大震災。35年のキャリアが、すべて公会堂の保存再生をやるためにあったように思えた。それほど、改めて向き合った公会堂は素晴らしいかった。

「構造、材料、仕上げ、設備。あらゆる面で学ぶところがあつた。昭和初期までの建築は全てそう」

だから工事の大方針は「可能な限り創建時の姿に戻すこと」。ほぼ10年ごとに細かい改修が加えられてきた公会堂は

変わり果てていた。シンボルの神像は取り外され、屋根の銅板は葺き替えられ、玄関の鉄扉は木に変わり……。設計図は既になく、頼りは材料などを文字で記した仕様書のみ。寸法や角度を昔の写真から割り出し、精緻な再生計画を練り上げた。工事に関わったのは3年半で延べ10万人。一流の仕事人た



「3階の特別室に光が灯ると、外からも天井画が見える。素晴らしい眺めですよ」と橋本さん。工事の一番の苦勞は外壁や屋根の洗浄。「あらゆる方法を試しながら1年かかった」とか。

この建物との出会いに
建築家として
運命的なものを感じました。

拜啓

大阪市中央公会堂は、中之島だけでなく大阪が誇るシンボルである。しかし、公会堂を何かの形で利用したことのある人となると、意外に少ないのが実際ではないだろうか。レンガ造りの外観がお洒落……といった情緒的なことはかりでなく、公会堂はもともと私たちにとって身近な存在になってくれる。まずは公会堂を陰に日向に支える人たちのアツい想いを聞いてみよう。

取材・文／大迫力 松本創(共に本誌)

中央公会堂といま

保存再生工事の期間を挟み、公会堂史上おそらく最長の8年にわたって館長を務めた豊田幸一さん。ミスター中央公会堂」と人は呼ぶ。だが、大阪府教委からの異動で平成8年に着任した当時は戸惑うばかりだったという。

文化財にするという方針も聞いていた。でもまさか、自分がその役をやるとは……。最初に館内を見て回った時はどこもホコリまみれで、ヘビの抜け殻まで転がってましたしね(笑)そのホコリを払い、大阪市民の宝として再び輝かせることが使命だった。建物の再生はもちろんだが、使いながら保存するため、設備の近代化が求められた。音響や照明・空調の改善。バリアフリーに耐震化。工事中

ここで過ごした8年は
喜怒哀楽がいっぱい詰まった
最も充実した日々でした。



3階特別室に立つ豊田さん。改修前、ふらりと訪れた指揮者の朝比奈隆氏に「これほどの建物で演奏会ができるとは」と叱られたり、桂米朝師匠に「若手に落語会をやらせたい」と頼まれたことも。

そんな濃密な日々を経て、再出発を切った平成14年11月。4日間で7万人が押し寄せた見学会の人波を、豊田さんは感無量で迎えた。「市民の祝福と期待、この建物がいかに愛されているかをひしひしと感じましてね。同時に、さあこれからどどんど人を呼び込まないかんぞ、と」その感激と決意をしつかり胸に刻み、市職員を退いた今も、公会堂の語り部であり続けている。

試験に出る
(かも)

ザ・大阪市中央公会堂 ヒストリー

取材・文／松本創(本誌)

【明治と大正】

◆明治44年(1911)
株相場の岩本栄之助が建設資金100万円(現在の価値で80億円とも)を大阪市に寄付

◆大正元年(1912)
懸賞金付き設計競技で早稲田大教授・岡田信一郎の提案が1等に。翌年、岡田氏案をもとに東京駅の設計者・辰野金吾と片岡安が実施設計し、工事開始



本誌第6号においてインタビューを試みた岩本氏。

【日本一の公会堂に 3日間で10万人!】

落成奉告祭には650人が出席。故・岩本栄之助を主賓とし、厳粛なムードで行われた。まず辰野金吾が建築過程などを報告。続いて、岩本氏の遺児・善子さん(当時4歳)が母や叔父に付き添われて登壇。正面入口の鍵を収めた鍵箱を市長に手渡し、公会堂は岩本家から市へ正式に寄贈された。翌日から始まった館内総覧会には「日本一の公会堂」をひと目見ようと、3日間で10万人の市民が集まった。

◆大正8年(1919)

ロシアの歌劇団による「アイダ」公演。日本初の国際的なオペラ歌手・三浦環が、当たり役「お蝶夫人」公演。

◆大正12年(1923)

イタリアの歌劇団が「椿姫」公演。

大正モダンな公演から 「婚活」支援まで!?

公会堂の催しの変遷は世相を映す。開館直後に宝塚少女歌劇や大阪音楽学校校の音楽会が行われたのをはじめ、大正と昭和初期には、演奏会や歌劇などモダンな風が吹いた。それが戦時体制に入ると「暴英撃滅国民大会」「国民連軍歌と映画の夕べ」などと「気には高成長を支えた。金の卵」たちが、ここで集団就職の第一歩を踏み出し、集団見合いも開かれた。

【昭和】

◆昭和18年(1943)
第二次世界大戦の金属供出により、エレベーターや階段の手すり、シンボル像などを撤去、業務停止

◆昭和20年(1945)
大阪大空襲、被災者収容のため、館の本来業務停止

◆昭和25年(1950)
前年に日本最初のノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が帰国講演会



長年館長を務めたミスター中央公会堂 豊田幸一さん

オムライスはどうどん屋の
だしのような存在。
完成されたもの
変えるわけにはいきません。

伝統と革新を 味で表現する料理人 辻岡重樹さん

地下1階にある洋食レストラン「中之島倶楽部」と言えば、オムライスが有名だ。中之島の名物と言って良いであろうこのメニューの味を受け継ぐのが、35歳の若きシェフ・辻岡さんだ。洋食をやりたいと、この店を



不動の人気を誇るオムライスは、パーティーメニューにも組み込まれている。「建物が良いから料理も映えますよね。料理人として誇りに思う」と辻岡さん。

選んだのは5年前。以前は「クラシックな建物があるなあ」くらいにしか思っていなかった建物は一転して「職場」となった。「重要文化財だし責任重大。普通の店とは雰囲気全然違いましたね」と辻岡さん。その責任感はやがて、オムライスの味にも及ぶこととなった。創業時から伝わる味を舌で、体で覚えて再現する。「これだけ長く愛されてきたものを僕の一存で変えるわけにいかない。うどん屋さんで言えばだしのような存在ですかね」との例えに、思わず深くうなずく。だからといって歴史の上にあぐらをかいているわけではない。クラシカルな洋食メニューが並ぶランチとは違って変わ

り、ディナーは辻岡さんの個性を反映した料理も多い。新しい食材や和食を取り入れるなど、レトロ口とはまた別の顔を意識している。だから「テラス席にビールだけ飲みに来られても構いませんよ」。伝統や歴史につきもののプレッシャーを、辻岡さんはむしろ楽しんでるようにも見えた。

中之島倶楽部

ケチャップとデミソースがからむしっとりとしたチキ
ンライスが特徴的なオムライス(680円)は1日約
200食を誇る堂々たる名物。懐かしさを味わう年配
客も多い。ナポリタンやカツサンドの懐かし系メニュー
のほか、夜は季節のコース料理(5,000円)も。



誌上ツアー

ディテールを見よ。

ハデな外観ばかりに目を奪われてはいけません。公会堂には随所に歴史の積層を感じさせるポイントが。

取材文 大迫力 松本創兵に本誌



1階 舞台上

スケールに圧倒される大集会室だが、舞台上に注目。これは中国の舞楽「蘭陵王」に使われるお面。古代中国の北齊の王・長恭はそのあまりの美貌から戦士たちが見とれて戦意を喪失するため、こんな恐ろしい形相のお面をかぶって叱責したという。今は戦いではなく、「ステージに集中せよ!」と言わんばかりに、観衆たちを見下ろしている。



地下1階 通路

地下1階の廊下には、かつて大集会室の2階で使われていた客席が展示されている。一見古びたイスだが、実は腰掛ける部分の裏側には中折れ帽子をしまっておくことができる工夫が凝らされている。金具が取り付けられ、帽子を逆さまにしてつばの部分をつっかける仕組み。紳士が集う場所だった歴史を物語るディテールだ。



なにわ橋駅 出入口

公会堂の周囲では、橋や照明なども公会堂の雰囲気合わせた意匠にすることが多い。京阪電車中之島線のなにわ橋駅もその一つ。カーブを描く壁にはLED照明内蔵のガラスブロックを貼り詰め、照明の強さに濃淡を施すことで、階段を下りる時には水中に潜るような、上る時には浮上するよう見える演出が。出入口自体が作品なのだ。



3階 特別室

公会堂の最深部とも言える特別室を飾る大きなステンドグラス。そこには慶事の象徴とされる鳳凰と共に、大阪市の市章でおなじみの「みおつくし」がデザインされている。平凸レンズを使用するのは、外の景色を縮小してみせるバロック的趣向。遠目に輝きが出る効果もある。



地下

永久保存されることが決定している公会堂には、地震から建物を守る最新鋭の技術が導入されている。「免震レトロフィット」という方法を採用。基礎部分に積層ゴムとダンパーを施すことで、上部建物に伝わる揺れを大幅に低減させている。また、地下の一角にはその工事の際に取り除かれた古い木製の杭が展示されている。



周辺

公会堂とほぼ同時期に、同じ辰野&片岡コンビが手掛けた波ビルが三休橋筋にある。しかも2棟。一つは高麗橋の日大中証券ビル(左)。赤レンガの外壁に石の帯を施す辰野デザイン。明治45年築ながら「同じ仕様の化粧レンガを使っているはず」と建築家の橋本さん。もう一つは、その少し北の八木通商ビル。大正7年の竣工から11年後に全面改修されたが、西面に赤レンガ時代の面影が残る。



3階 階段脇

古いヨーロッパのギャング映画にでも出てきそうなレトロなたたずまいのエレベーター。各階の扉も、エレベーター自身の扉も蛇腹式になっており、手動で開閉する。現在はもちろん使われてはいないが、一般公開時などの際のみ見学できる。かなりのレア度で、エレベーターマニアの間では横綱級の人気を誇っている。

他にもまだまだ見どころ

正面のアーチ型屋根に遊ぶ「ミネルバとメルキュール」の像に始まり、小集会室などの壁面に施された象嵌細工、階段手すりに見られる鉄製の装飾、特別室の天井画…書ききれないほどの見どころが公会堂にはある。大阪に緑のある人ならばぜひ一度はその目で確かめていただきたい。



◆昭和30年(1955)
社会福祉事業家ヘレン・ケラーの講演会。

◆昭和37年(1962)
前年に人類初の有人宇宙飛行に成功したソ連のガガーリン大佐が講演。

◆昭和46年(1971)
中之島東部開発構想に伴い、取り壊しの危機に。建築家や市民の反対運動が盛り上がる。

◆昭和63年(1988)
開館70周年。公会堂の永久保存と活用の方針を大阪市が表明。

◆平成8年(1996)
保存再生の基本設計がまとまる。

◆平成9年(1997)
元リ連大統領のゴルバチョフ氏が講演。

◆平成11年(1999)
「免震レトロフィット」工法などを取り入れた保存再生工事が3月にスタート。

◆平成14年(2002)
9月完成。11月から使用再開。12月に国の重要文化財に指定。

◆平成20年(2008)
開館90周年を迎える。

◆平成21年(2009)
10月、ナカノシマ大学が大集会室で開校。





館長・中井雅博さんに聞く 公会堂の役割と 「やってみなはれ 精神」取材・文／大迫力(本誌)

「昨年、アンケートをとったところ、初めていらした方が約7割。大阪市内の方でも館の存在すら知らない人がおられたんです。現在、稼働率7割の人気を誇る公会堂だが、利用者の半数近くはリピーター。太く長く愛されている反面、「中之島や公会堂がイメージだけで語られている」との懸念もあるようだ。「大集会室などの名称通り、「集う」「会う」をキーワードに、新しいものが生まれる場に」するのが今後の公会堂の役割だという。

それを実践するべく公会堂の運営を行っているのが、中井さんをはじめとする「サントリーパブリシティサービス(SPS)」の面々だ。指定管理者制度により大阪市から業務委託を受け、事務的な業務のほか見学ツアーなどの広報活動も積極的に行う。「スタッフを募集する時の一番の条件は公会堂が好きであること」と中井さん。今夏に行われたタウンツアーでは、館内だけでなく市役所や中之島図書館も一緒に見て回るなど、その活動は中之島の魅力を伝えるものへと広がっている。「ツアーに使った旗はスタッフが時間外に手作りしたもの。業務委託ならそこまでせんでも…との声もありますが、これも「やるからには、徹底してやりきる」というサントリーの企業風土がもたらします。まずは行動するという同社の「やってみなはれ精神」は、それが生まれた中之島の中心でもしっかりと息づいていたと言うべきか。

大阪市中央公会堂 「光のオープン見学会」

12月に開催される「OSAKA光のルネサンス 2009」(P22)にあわせ、公会堂でもイベントが行われる。期間中の土・日・祝日に、平和の鐘と四季の花をモチーフにした「光絵画」が壁面に映し出される。また、12月22日(火)にはオープン見学会を開催(3:00PM~最終入場8:30PM)。今回紹介した特別室や大集会室を自由に見て回れる貴重な機会となる。この日はハンドベルの演奏もあるなど、ぜひ「月刊島民」を片手に足を運んでいただきたい。問い合わせ／大阪市中央公会堂 ☎06-6208-2002



こんなこと
やります

プレゼンター／レトロ建築の有効利用はおまかせ BMC(ビルマニアカフェ)のみなさん

【企画概要】 シンボリックな建築的意匠を活用した (夜だけ)レジャービル化計画

【具体案】

ここは思い切って遊んでみたい。題して「公会堂レジャービル化計画」。大人が遊びに行く、昭和の旧き佳き「レジャー」感を演出します。

まずは外観を電飾で型取って飾ります。最近ではLEDが主流だけど、ここはあえて近々LEDに取って代わられる豆球で。日本中から要らなくなった豆球を集めて、職人さんに最後の大作をやってもらいます。そして大集会室の舞台も、昭和のステージ技術をたっぷり使って飾りたい。たとえばこの写真は昭和46年に大阪で開かれた「ミスユニバース」のコンテスト。電飾とか舞台装飾とか良い味出してるでしょ。そのステージではコンサート、2階席にはカジノゾーンも作りたい。ふざけすぎ？



いえ、公会堂はこれくらいじゃ安くないはず。もうすぐ100年の信頼のブランドを信じてるからこそ、こんな無茶が言えるんですよ。

BMC それぞれに建築に関わる仕事を持つ5人のユニット。洗いや魅力のあるビルとユーザーをうまくマッチングさせるべく、天満を拠点に活動中。<http://bldg-mania.blogspot.com>



ファンゆえに勝手にプレゼン
公会堂なのに…
あんなことしても
良いですか?!

プレゼンター／洋館を演劇のステージに変える劇団 劇団G-フォレスタ 丸尾 拓さん

【企画概要】 明治～大正の雰囲気再現する 洋館ミステリー in 大集会室

【具体案】

過去に他の洋館で上演した作品ですが、夢野久作の『二重心臓』などはとても雰囲気に合うだろうな、と思います。この作品の解決編は、犯人である女優が自作自演の殺人暴露公演をするという設定になっており、舞台上で自殺をして終わるんです。許可は下りないでしょうが、舞台上を血で真っ赤に染められたら…とても美しい景色になる気がします。



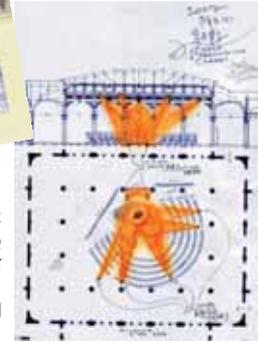
ほかには、横溝正史の『びっくり箱殺人事件』でしょうか。これも、美女と怪物が入り乱れる悪趣味なレビュー中に舞台上で殺人事件が起こります。江戸川乱歩の怪人ものなども面白いだろうなあ、と思います。黒マントに覆面の怪人が、公会堂のあちこちに立っていたり、走っていたり、客席に座っていたり…。なにかの作品をアレンジしてやってみたいですね。製作費が湧いてくるようであれば、ぜひ本当に遊んでみたいものです。



劇団G-フォレスタ 尼崎市武庫之荘を拠点に京阪神各地で公演。洋館ミステリー劇場シリーズは、毎回抽選になるほどの人気を誇る。次回公演は来年2月と9月に。<http://g-foresta.com/>でチェック。



客席と同じ高さの舞台には岩井さんと、ピアニストの喜多光三さん、そして館に受け継がれるドイツの名器「パーゼンドルファー」。右は、この写真の2007年の会場図(橋本さん画)。



次回は何が起こるか。そんな楽しみもあるシマの演奏会なのである。

「大正浪漫」蘇る
サロンコンサート
歌手 岩井豊子さん

「すごく響きが良くて歌いやすい。部屋などの場所に立っても同じ響きが得られるんです」というのは、保存再生工事の後、毎年9月に3階の中集会室でサロンコンサートを開いているソプラノ歌手の岩井豊子さん。クラシカルな建物と音楽の優美な調和は、さながら「蘇る大正浪漫」といった趣。「一部

いい雰囲気なんですよ。」

企画・演出するのは、保存再生を統括した建築家の橋本健治さん(P22)。

公会堂ウエディング フランクのさきがけ 横関正人さん 万貴子さん



住宅や店舗の設計を手掛ける横関さん夫妻は、公会堂の改修後の2002年11月30日、初めて披露宴を開いたカップルだ。会場として3階の中集会室、控室として隣接する特別室を使った。普通の利用者同様、列に並んで予約した正人さんは、「建築家である以上、誰もが認める本物の建物で開きたかった」と回想する。だが、前例がないだけに制約も多かった。建築関係の友人らが実行委員会を開き、新郎新婦と建物の両方を主役とするべく打ち合わせを重ねた。「衣装は当初ラフにする予定だったが、建物に負けないように急遽調達したんですよ」と万貴子さん。これが20人のゲストを大いに喜ばせたのはいわずもがな。そしてこの事例が話題を呼び、各社がこぞってプランを売り出す人気ウエディングとなったのだ。



披露宴の会場風景。建築関係者が多く参加しただけあって、あちこちで建物の説明会が始まったのだとか。

公会堂で どうでしょう?

中央公会堂は見るだけ、写真を撮るだけの存在にあらず。
大阪市民はもっとこの場所を有効活用すべきなのだ。
あなたが温めている次の企画、いっそ公会堂でどうでしょう?

取材・文／大迫力 網本武雄 松本 創(以上本誌)



2010年
1月講座

畑 耕一郎 (辻調理師専門学校日本料理技術顧問)
「京都の味、大阪の味」



「京料理って、たぶん東京の人が
使い始めた言葉やろね」

え、そうだったんですか!? 今や普通
名詞として日本だけでなく世界中に流布
している「京料理」なる言葉は、東京の
人の京都への憧れが生んだものではない
かと指摘するのは、今回の講師である畑
耕一郎さん。そう、テレビの料理番組で
もおなじみの「畑せんせ」である。

一般に、京料理は「はんなり」の薄味、
対して大阪は「ざんぐり」の喰い味と言
われる。しかし、メディアで喧伝される
それらのイメージの実態はどうか。
あるいは、そもそも京料理なるものは存
在するのか、はたまた「大阪料理」とい
う言葉はないが大阪に特有の料理法だ
ってあるはずで、そここのところは一体ど
うなんだろう? …という街での食べたり
飲んだり好きな人たちには切実な、い
わば食における大阪・京都の比較文化論。
個性の異なる都市を比較することで、両
者の奥行きが見えてくる。「まず人間が
生活するのに食べもんがあって、料理法
や店の系統なんかは後からの話」とい
う畑せんせのルーツに迫る講義に注目したい。

「京都の味、大阪の味」

募集要項

講師/畑 耕一郎
日時/2010年1月13日(水) 7:00PM~(開場6:30PM)
会場/追手門学院 大阪城スクエア
受講料/1,500円
定員/150名
主催/ナカノシマ大学事務局 協力/大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはH
P内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複
数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。
〒550-8790 郵便事業(株) 大阪西支店 私書箱181号「月刊島民ナカノシマ大
学12月講座」受付係 FAX.06-6445-0071 http://www.nakanoshima-univ.com/
※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
●ナカノシマ大学に関するお問い合わせは事務局まで ☎06-4799-1340



同志よ、
イモを買い給え!
会場にて販売いたします。

◎今回の教室:追手門学院 大阪城スクエア
追手門学院が創立120周年記念事業の一環として、
発祥の地である大手前キャンパス内に誕生。
大阪城が窓のすぐ外にドーンとそびえる光景は圧巻です。

シマにまつわるあれこれの名刺を勝手にデザイン
ワタクシ、こういう者です。
デザイン/長友啓典



おお、よく来てくれましたな。
わしが岩本栄之助じゃ。
わしがこの中央公会堂を建てたい、
いや建てなければと思ったのは30代の頃だったなあ。
視察で訪れたアメリカのカーネギーホールのように
誰もが集える場所を、と考えて寄付をしたんじゃ。
まさかその時はこんなに愛される場所になるなんて、
夢にも思わへんかった。本当にありがたいの。
今も地下にはわしの部屋があるのを知っているかな。
みんなが記念室を作ってくれたんや。
なあと、心配せんでも入るのにお金などいらんよ。
社会のためにお金を使う、
「ダンナ精神」は大阪の古くからの美風やな。

◎名刺のココロ
明治時代にタイムスリップすると、
当時の財界の名刺はこうではなかる
うかと考えた。私が岩本さんなら、
この名刺を配ることでコミュニケー
ションをはかったらと思う。当
時の人たちはおそらく目を見張った
のではなかるうか。

ながとも・けいすけ
1939年大阪生まれ。1964年日本デ
ザインセンター入社。1969年黒田征
太郎とK2設立。エディトリアル、各
種広告を手がけるほか、多数の小説
に挿絵、エッセイを連載。自身が手
がけた名刺デザインをまとめた「成
功する名刺デザイン」(共著・講談社)
も発売中。

11月5日(木)

手塚治虫に学ぶ“生きること・死ぬこと” @大阪倶楽部 講師/久坂部 羊

本誌連載エッセイでもおなじみ、医師で作家の久坂部羊氏が登壇した第2回ナカノシマ大学のテーマは、手塚治虫作品を手掛かりに考える医療そして生命観。大阪大学の先輩であり、医師兼作家の先達でもある手塚への敬意に満ち

た作品・作家論に始まり、医師の抱えるジレンマ、さらに、長寿や健康を最上の価値観とする現代社会への警鐘まで、縦横に軽妙に、笑いも交えて展開された講義に200人の聴衆が聞き入った。

『鉄腕アトム』世代の久坂部さんはまず、幼少期に読んでいたお宝本を披露して会場を沸かせつつ、「愛と平和のヒューマニスト」という一般的な手塚像に疑問を唱えた。アトムの「青騎士の巻」などを紹介しながら、「手塚の中には悪の部分もあった。彼が描いたのは、単純に0+1の物語ではなく、マイナス99に100を足して結果的に1にする、そんな深みのあるヒュームニズムだ」と。

医学生時代に読んだ『ブラック・ジャック』の話では、安楽死を請け負う医師ドクター・キリコについて熱く語った。「ただ延命させれば患者は幸せなのか」と自らもたびたび悩んだ医師のジレンマを吐露。「どうしても病気を治すというブラック・ジャックの視点と、



死には抗えないと達観するキリコの視点、さらに、あえて手を施さず患者を見守る視点。その3つを併せ持つことが医師には必要だと思う」とした。

自著『日本人の死に時』に話が及ぶと、アンチ・エイジングをはじめとする現代の“不老長寿”幻想をバツサリ。「歳を取るの悪いことという発想をやめて、与えられた天寿をいかに豊かに生きるかをこそ考えるべきではないでしょうか」と会場に問いかけた。



本格スタート!「21世紀の懐徳堂プロジェクト」

久坂部羊先生の講座に先がけ、この日「21世紀の懐徳堂プロジェクト」記者説明会が開かれた。ナカノシマ大学や大阪大学21世紀懐徳堂、アートアセンブリー・中之島などが自主的に講座や発表の場を開きつつ、共同で学びの場や参加団体を拡げていこうと、各自の言葉でメッ

セージを伝えた。平松邦夫大阪市長は「中之島を知恵の蔵屋敷に」、鷺田清一大阪大学総長は「情」と“知”溢れた学びの場に」、堀井良殷大阪21世紀協会理事長は「アーティストに場を提供したい」、本誌編集発行人の江弘毅は「中之島を、面白い話が飛び交うメディアに」と語った。



(左から)平松邦夫市長、鷺田清一氏、堀井良殷氏、江弘毅。各氏の手には「島民」が!

21世紀の懐徳堂プロジェクト

都市文化論

まちづくり・まち育て講座

地域の自立が求められる昨今、全国的に地域ブランディングの動きが起ころってきています。地域にある自然、歴史・文化遺産、伝統行事・伝統芸能、食文化など、地域固有の資源を活かしたことから、市民やクリエイターによる新たなまち

論について考えます。

おこしの動きなど、その内容は多種多様です。

今回の講座では、主に“大阪”を中心としたまちづくり・まち育ての取り組みを紹介しつつ、都市の活性化と新たな文化創造につながる方法

●大阪21世紀協会提供

インテリジェントアレー 専門セミナープログラム

大阪21世紀協会では、活動の一つとして、大学等の研究機関と連携し、知的成果を社会に活用する「社会学連携事業」に取り組んでいます。

今年度には、特定非営利活動法人 関西社会人大学院連合との連携協定を締結し、同連合が主催する「インテリジェントアレー 専門セミナー」プログラムの企画・運営を行いました。

開催日時/平成22年1月13日(水) 19:00~21:00 全6回
会場/キャンパスポート大阪 大阪市北区梅田1-3-2 400号
大阪駅前第2ビル4階 ☎0662103620
参加料/1講座4000円(6講座通し18000円)
定員(最小催行受講者数)/35名(20名)
主催/財団法人大阪21世紀協会 関西社会人大学院連合
お勧めしたい方
●地域においてまちづくり活動に関わっている方、または関心がある方
●地域ブランディングについて、現場での経験を踏まえた深い洞察を得たい方
●プロジェクトの企画・立案から実際の運営に至るマネジメントについて学びたい方
修了証・成績票/全5回出席された方に修了証を発行します。

各講座内容

- 1.都市ブランドを考える** 講師/陶山計介 平成22年1月13日(水) 19:00~21:00
近年、都市ブランディングが都市再生における切り札の1つになってきました。都市マーケティングは都市や地域を再活性化することによって競争力を高めることができます。同時に都市ブランドは市民や企業、NPO、また自治体や観光客などにとって安心、信頼、感動とあこがれの対象となり、自信や誇りの源泉になります。国内外の事例をふまえながらそれについて考えてみましょう。
- 2.水都大阪による都市再生** 講師/室井明 平成22年1月27日(水) 19:00~21:00
「川と生きる都市・大阪」をメインテーマに、大阪を再生する新しい街づくりイベント「水都大阪2009」。2009年8月から10月にかけて開催された同イベントでの実施内容と、そこで芽生えたムーブメントを継続・継承していくシクミづくりについてお話しいたします。
- 3.ワークショップ都市・大阪** 講師/小原啓渡 平成22年2月10日(水) 19:00~21:00
200種類の体験型講座を集めた、国際ワークショップフェスティバル「DOORS」の企画・運営過程を紹介しながら、文化イベントが街に根付いていくための戦略について分析します。
- 4.コンテンツによる地域おこしの実際** 講師/間藤芳樹 平成22年2月24日(水) 19:00~21:00
全国各地の街おこし・村おこしの成功事例には、ある共通項があります。それは「特別なものを作ったり、よそから持ってきたりするのではなく、今身近にあるものをきっちりと掘り下げて作り込むこと」です。今回の講座では、具体的な成功事例を紹介しつつ、地域の魅力づくりについて考えていきます。
- 5.開発途上・まちおこしとしての市民力** 講師/林信夫 平成22年3月10日(水) 19:00~21:00
町を研究するさまざまな専門家集団、学術グループは存在します。町を活性化することを業務としておこなう行政職員がいます。そして町を元気にしたいと願う多くの市民グループも存在します。このトライアングルを主として市民の側から、平城遷都1300年祭の歩みを例示しながら考えてゆきます。
- 6.まちづくりと「コア・アイデンティティ」** 講師/堀井良殷 平成22年3月24日(水) 19:00~21:00
まちづくりの活動には「コア・アイデンティティ」の抽出と活動への照射が不可欠です。大阪ブランドコミュニティや関西ブランド力向上研究会を例に、なぜ重要なのか、どのように抽出を行ったのか、それはどのような内容であったのか、実際の活動はどのように展開されたのかを明らかにし、分析・検証を行います。また、6回のシリーズ全編についての討議も予定しています。

21世紀の懐徳堂プロジェクト 12月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

16	水	7:30PM~ 9:00PM	「普通の人に必要絵の描き方講座」チャンキー松本 (アーティスト) 受講料:1,500円 イメージは「会議の資料に入れる、ちょっとしたイラスト」。そんな普通の人に必要絵の描き方をお教えます。	会場 A
19	土	6:00PM~ 7:30PM	「世界が変わる?写真教室」nemi (写真家) 受講料:2,000円 (1ドリンクオーダー制) 難しい写真の技術を知らなくても、撮りたいものが撮れる技術をお教えます (ご自身のカメラを持ってご参加ください)。	会場 B
		12:00AM~ 2:00PM	「インテリア風水で快適な住まいづくり」坂西やす子 (インテリアアドバイザー) 受講料:3,000円 (ランチ付き) 風水とカラーの要素を取り入れ、快適な暮らしの追い風となるようなインテリアについてお話しします。	会場 F
20	日	10:00AM~ 1:00PM 2:00PM~ 5:00PM	「トリ・スクール」岡山 拓 (美術家) 受講料:2,500円 (1ドリンク付) 展示会カタログを参照しながら、初めての人も分かるようにゆっくり美術史や各種ムーブメントについてお話し。	会場 D
20・23	日・水 (祝)	2:00PM~ (2~3時間 程度)	「オリジナルファブリックで世界にひとつのかばん!」KOJIKI (かばん作家) 参加費:3,800円 (商品代十加工材料費2,000円) 作家と一緒にオリジナルファブリックを制作! 仕上がった布はあなただけのKOJIKIかばんにお仕立て致します。※12/18申込締切	会場 E
23	水 (祝)	1:30PM~ 3:00PM	「スイーツをつくるサロン」瓜生良江 (料理研究家) 受講料:1,500円 「Kitchen Macridoo」の瓜生さんが、「植物性のオーガニックケーキ」の料理法をご紹介します。	会場 C

A common cafe 大阪市北区中崎西1-1-6 吉村ビルB1F
☎06-6371-1800 <http://www.talkin-about.com/cafe/>
B Books Coffee Gallery iTohen 大阪市北区本庄西2-14-18 1階
☎06-6292-2812 <http://www.skky.info/>
C 中崎町サロン文化大学 大阪市北区鶴野町
お問合せ・お申し込み:<http://nakazakicho-u.blogspot.com/>

D 欧風食堂 ミリバール 大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.
☎06-6531-7811 <http://www.artniks.jp/millibar/>
E タビエスタイル 大阪市中央区南船場4-4-17 B1
☎06-4963-7450 <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~tapie/>
F ポーポー屋 大阪市西区北堀江1-14-21 第1北堀江ビル
☎06-6531-7827 ippuku-popo@rio.odn.ne.jp



大阪カルチャークラスター!!

大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。
※ワークショップについてのお問い合わせは各店舗へお願いします。

3	木	7:00PM~ 9:00PM	「翡翠の会」坂本宜世/Sue (料理専門学校教師) 受講料:3,500円 (ご飯付き) 講師が用意するテーマに合わせた「おにぎり」や「お味噌汁」を味わいながら、食にまつわるお話を聞く勉強会です。	会場 D
6	日	11:00AM~ 2:00PM	「身近な食物でできるお手当て法」奥有里子 (野菜料理人) 受講料:3,500円 (ごはん付き) お家でできる冬の養生法。実践した後は、身体に優しいごはんをいただきます。	会場 F
7	月	7:30PM~ 9:00PM	「美術史はじめの一步<5>」樋口ヒロユキ (美術評論家) 受講料:1,500円 美術史に興味のなかった方、美術の見方がよくわからない方のための美術史講座。今回のテーマは「風景と美術」です。	会場 A
11	金	7:30PM~ 9:00PM	「本をデザインする」鯉坂兼充 (アートディレクター) 受講料:1,500円 本 (小冊子) の企画の立案から、細部に至る効果的なデザインを組み立てる手法を、手作業を中心にお教えます。	会場 A
13	日	11:30AM~ 1:00PM	「マクロビオティックサロン」豊村恵子 (料理研究家) 受講料:2,000円 (料理費込み) 「Kitchen Macridoo」の豊村さんが、「冬野菜を使った料理」の料理法をご紹介します。	会場 C
		0:30PM~ 4:30PM	「Plain Life 革小物教室」尾崎 美穂 (革小物作家) 受講料:6,000円 (材料費・テキスト・ドリンク込み) millibar salonでお茶をしながら物作り。基本のカタチに工夫を加えて、あなただけの革小物にチャレンジです。	会場 D

アートエリアA1 レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアA1」。12月のラインアップはこんな感じ。

2	水	7:00PM~ 8:30PM	学生プレゼンテーション「阪大生による駅でのアートイベントの可能性」定員:40名 アートイベントの企画立案に取り組んできた阪大生がプレゼンを行い、実施の可能性について語り合います。
4	金	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コラージュ/書評カフェ『就活のバカヤロー』定員:50名 取り上げるのは『就活のバカヤロー 企業・大学・学生が演じる茶番劇』。「就職活動」の問題点を考えます。
5	土	3:00PM~ 5:00PM	中之島哲学コラージュ「激突!contact Gonzo 哲学パフォーマンス」定員:50名 ゲストはパフォーマンスグループ「contact Gonzo」。激突する身体と飛び散る汗、そこに火花を散らす哲学はあるか?
9	水	7:00PM~ 9:00PM	オルタナティブカフェ「年忘れ!オルタナミーティング」定員:40名 これまでの流れを踏まえ、しつこく私たちにとっての“オルタナティブ”をめぐるディスカッションを行います。
10	木	7:00PM~ 9:00PM	マンガカフェ「さそうあきら、「音」を語る」定員:100名 第1回目は『神童』で手塚治虫文化賞を受賞したさそうあきらさんを迎え、マンガと音・教育について語ってもらいます。
15	火	6:00PM~ 9:00PM	旅カフェ「大阪RPG報告会」定員:50名 〈旅+アート+トーク〉イベント「OSAKA RPG」の報告会を、「旅カフェ」オープニングイベントとして実施します。
16	水	7:00PM~ 9:00PM	マンガカフェ「手塚るみ子、父・手塚治虫を語る」定員:100名 第2回目は手塚治虫さんの長女・るみ子さん。様々な角度から新たな手塚治虫像を探ってみたいと思います。
17	木	7:00PM~ 9:00PM	鉄道カフェ「鉄カフェをみんなで考える08」定員:30名 参加者によるプレゼンや素朴な疑問から派生した議論など、鉄道に関する様々な情報交換と対話が繰り広げられます。
18	金	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コラージュ/哲学セミナー「もしも左側が無かったら」定員:50名 左右という概念はどのように決まるのか。解説の後、少し身体を動かしながら参加者全員で考えていきます。
19	土	4:00PM~ 7:00PM	第3回洪庵塾カフェ「21世紀の多言語・多文化社会を駆け抜ける本格派バイリンガルカフェ」定員50名 「内なる国際化」の問題について、特に「言語獲得・習得」履歴という経験論の立場から多言語・多文化社会を展望します。

会場/アートエリアA1 問い合わせ/[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD) ☎06-6850-6111 (豊中キャンパス代表)
参加費/すべて無料 [場所などについて]アートエリアA1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
開場/それぞれ開始30分前から ※申し込みは不要ですが、当日先着順とさせていただきます (入退場自由)。※お客さま参加型のプログラムです。



大阪大学21世紀懐徳堂

●大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と共催で淀屋橋odonaにあるアイ・スポットで開催する講座です。

11	金	6:30PM~ 8:00PM	「体感・音声学」岡田祥平 (文学研究科助教) 口と耳をフルに活用して、肉体を通じて音声学という学問を体験。外国語学習などに役立つのでは。
17	木	6:30PM~ 8:00PM	「幕末の懐徳堂」矢羽野 隆男 (四天王寺大学 人文社会学部 准教授) 数々の町人学者を輩出した懐徳堂はどのように閉校に至ったのか。激動期の懐徳堂についての検証とその後意見交換する。

会場/アイ・スポット (淀屋橋odona 2階) 受講料/無料 定員/各30名 事前申込制 申し込み・問い合わせ/大阪市計画調整局 ☎06-6208-7824

●Handai-Asahi中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

2・16	水	1:30PM~ 3:00PM	「シルクロードを旅する」荒川正晴 (文学研究科教授) 受講料:3,150円 中央アジアより出土した文字資料を用い、シルクロードの実態を読み解く。今回は身体と心の「移動」がテーマ。
12・19	土	10:30AM~ 12:00PM	「遺伝子組み換え植物の光と影」福井希一 (工学研究科教授) 受講料:3,150円 遺伝子組み換え体の作出に使われる操作法の原理と方法を学習。知識を深め、自分なりの判断を下すことに重点を置く。

会場/大阪大学中之島センター インターネット、電話、ファックスか、朝日カルチャーセンターの窓口でも直接申し込むことができます。
問い合わせ/朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224 <http://www.asahi-culture.co.jp/index.html> ☎06-6222-5224 FAX06-6222-5221

●大阪大学21世紀懐徳堂共同企画 立命館京都文化講座『大阪・京の色彩』

7	月	2:00PM~ 3:40PM	「第7回 文人たちの京都一花街とその周辺で」加藤政洋 (立命館大学文学部准教授) 花街とその周辺で文人たちが経験した「京都」を作品の中に見出し、探訪します。
14	月	0:00PM~ 3:40PM	「第8回 橋本 商都の色彩—北野恒富、島成園、小出権重など、近代大阪の画家とその作品—」 橋本 節也 (大阪大学総合芸術博物館教授) 東京、京都とも異なる大阪の「画壇」の特色を「色彩」をキーワードに解き明かします。

会場/立命館大阪オフィス HPかオフィスで手に入る受講申込書に必要事項を記入し、郵送・ファックス・Eメールいずれかの方法で下記までお送りください。
受講料/2,000円 定員/各80名 受付後、「受付確認書」「郵便振込用紙」が送付されますので、受講料を納付 (郵便振込) 願います。
お問い合わせ/立命館アカデミア@大阪 〒541-0041 大阪市中央区北浜3-1-18 島ビル6F 立命館アカデミア@大阪
☎06-6201-3610 FAX06-6201-3620 osaka-of@st.ritsumei.ac.jp

医学生の実習あれこれ 後編



医学生の実習（以下、ポリクリ）の目的は、当然のことながら、診察や診断の仕方を学ぶことである。

ところが私は、本来の目的からはずれて、患者の心情に気を取られたり、医療のあり方について疑問を持ちたりすることが多かった。それは実習を受ける上では、決して有益なことではなかった。

たとえば、心臓外科のポリクリでは、ある指導医の言葉に強い反発を感じた。その医師は先天性の心疾患が専門で、生まれつき心臓に異常のある子どもの手術を多く手がけていた。

手術を見学したあと、彼は学生たちに、医学の進歩によっていかに多くの子どもを救えるようになったかを、誇らしげに語った。そして、最後にこう付け加えた。

「今までいちはん腹が立ったのは、手術の前に子どもの父親が、『もうこんな障害のある子はいえんです』と言ったときやった。なんというひどい親かと思ったよ」

ない不幸に直面させられているのだ。もしこれが自分の彼女だったら。そう思うと、私は息が詰まるほどの恐怖を感じた。

「手術、頑張りましたよ」

それだけ言って、患者の前を離れていった教授の言葉の何と、虚しかったことか。

外科のポリクリでは、すでに乳がんの診断がついて、手術待ちをしている女性の診察をした。彼女はまだ33歳で、未婚だった。しかし、がんはリンパ節に転移していて、助かる見込みは5割以下とのことだった。

病室に向う途中、指導医が声をひそめた。

「出産してないから、すごくきれいな胸ですよ。取るのが惜しいくらい」

それを聞いて、私はこの指導医に激しい憤りを感じた。

女性は4人部屋の奥のベッドにいた。学生たちは神妙な面持ちで、順に診察させてもらおう。がんを指でたどり、転移して硬くなったわきのリンパ節にも触る。反対側の乳房にも触って、正常な乳腺とがんのちがいを覚える。

その間、女性はじっと天井を見つめていた。全員の診察が終わる、指導医が「ありがとございます」と頭を下げて、女性はまったく表情を動かさなかった。

指導医は、子どもを見捨てるようなことを言った親が許せなかったのだろう。しかし、私は素直にうなずくことができなかった。指導医の口ぶりに、外科医特有の高慢なエリート意識を感じたからだ。

医師は目の前の命を救って、ヒロイズムに浸っておればいい。しかし、この先ずっとその子と生きていく親の大変さはどう考えているのか。

心臓に先天性の異常がある場合、ほかにもさまざまな障害を伴うことが少なくない。絶望のあまり、ヤケになってつい口にした言葉に、もう少し思いやりがあってもいいのではないか。命を救うことはもちろん大事だが、それを一方的に押しつけ、受け入れるのが当然と決めつけるのは、医師の思い上がりではないか。私はそう思って、疑問と嫌悪を感じたのだ。

産婦人科のポリクリでは、教授の病棟回診を見学した。いわゆる「大名行列」である。患者の中に、「双角子宮」で手術を受ける人がいた。子宮の内側がふたつに割れていて、妊娠が継続

病室を出るとき、私はふと気になって、女性を振り返った。彼女は顔の上までふとんを引き上げて、泣いていた。握りしめたふとんの端を、細かく震わせて。

医学生の実習とは、何と残酷なのだろう。がんがリンパ節に転移し、死の瀬戸際に立たされている彼女を、勉強の具にし、ただ通り過ぎていく。私はそんな自分に、どうしようもない嫌悪を感じた。

内分泌疾患を診る第三内科では、30歳の「ガロイズム」の女性を診察した。この病名は先天的な代謝異常で、病名は中世ヨーロッパの怪物「ガロイル」に容貌が似ていることに由来する。低身長で背骨が曲がっていて、指が拘縮でほとんど動かない。角膜が混濁して、目が見えない。

この女性は、どうやって暮らしているのか。料理もできないし、着替えもひとりではむずかしいだろう。遊びも楽しみも、健康な私たちのようにはできない。そう思うと、私は言いようのない深刻さに駆られた。

診察が終わって患者が出て行ったあと、私は治療法を質問した。指導医は事実だけを淡々と答えた。

「この病名は遺伝によるものだから、治療法はないよ」

しにくい病名だ。25歳の彼女は、三度妊娠して、すべて流産していた。診察した教授が、彼女の肩に手を置いて、優しく言った。

「もう、話は聞いていますね。子宮の形がふつうでないのも、なかなか赤ちゃんが育たないのです。手術をしても、確実に出産できるとはかぎらないんだが」

そしてカルテを見て、こう呟いた。「二度目の赤ちゃんは、6カ月まで育ってたんですか」

「はい。育ってました」

女性の声には、何ともいえない押し殺したような悔しさがにじんでいた。何度もお腹の子を失った彼女の悲しみは、どれほどだったろう。

そのあとで、32歳の子宮がんの女性を診察した。がんだから子宮は取らなければならない。しかし、そうなる出産はできない。命と引き替えに、生涯、子どもを産むことをあきらめなければならないのだ。

彼女は病名を知っていて、手術を納得しているようだった。だれが悪いのでもない。もちろん彼女の責任でもない。この女性は理由のわから

同じ科で、18歳のターナー症候群の患者を診察した。低身長、無月経などを主症状とする染色体異常である。患者は人形のようにかわいい顔をしていたが、教科書によれば、それもこの病気の症状のひとつだった。染色体異常だから、もちろん治療法はない。患者に付き添っていた母親は、ずっとハンカチで鼻を押さえ、すすり泣いていた。

別の日には、下垂体機能異常で性早熟の患者を診た。8歳の男の子だ。それなのに中学生のような顔つきで、うっすらヒゲも生えている。身長は138センチ。この年齢ではずば抜けて高いが、それは早熟のせいだ。おそらくあと数センチで止まると予測された。陰毛もあるはずだったが、本人が気にして、自分で剃っているとのことだった。まだ8歳の少年である。どれほどの苦悩を、その小さな胸に抱えているのか。

ほかにも難病や畸形、ホルモン異常など、まだまだ書ききれない悲惨な患者を何人も見た。医療がいくら進んでも、治療のしようもない患者。医療の闇に葬り去られる人々。そんな患者を思えば、医療の明るい部分や、きれいな事にばかり目を向けることなど、私にはとてもできない。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。今月発売の『小説すばる』に、短編「愛ドクロ」掲載予定。頭蓋骨フェチの奇妙な男の話です。

『月刊島民』読者のみなさんへ アンケートご協力をお願い

いつも『月刊島民』をご愛読いただき、ありがとうございます。「中之島に行ってみよう!」
「来月も読みたい」と思っていただくために、アンケートにご協力ください。誌面作りの参考にさせていただきます。
☆お送りいただいた方の中から抽選で10名の方に500円分の図書カードを差し上げます。
(プレゼントの当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます)

『月刊島民』について

- 『月刊島民』を読むのは…

今回が初めて	過去2~5回	ほぼ毎号	毎号
 - 今月号で面白かった記事・面白くなかった記事
 面白かった記事:
 面白くなかった記事:
 - 特に印象に残っている号とその理由
 - 今まで『月刊島民』を読んで足を運んだ場所
 - 今後、取り上げてほしい話題・ジャンル・人・スポーツ
 - 賞賛、叱咤、激励…『月刊島民』へメッセージを!
- ## 中之島について
- 中之島の好きどころ・嫌いどころ
 好きどころ:
 嫌いどころ:
 - 中之島およびその周辺で行ってみたい場所
 - 中之島を訪れる際の交通手段
 - 今後、中之島がどんな街になってほしいか?

お名前	ご年齢	ご連絡先(電話番号 or Eメールアドレス)
ご住所 〒		
『島民』を手に入れる場所		よくご利用になる鉄道

お送り先は「月刊島民プレス アンケート係」まで! (この件に関するお問い合わせは ☎06-4799-1340)

- ファックスの方は… **06-4799-1341**
- ハガキの方は… 〒550-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
- メールの方は… **uketsuke@140b.jp**

※お取り扱いする個人情報は、賞品の発送をお送りするためにのみ利用し、それ以外の目的で利用することはありません。

Will you join us? 中之島に「入会」しませんか?

取材・文/石原 卓(本誌)

大 阪最古の紳士社交倶楽部である大阪倶楽部の会員(社員と言ふ)になつてはや10カ月。様々な出会いがあり、そして発見があった。僕は「ビルゼン会」という、倶楽部の中でも多くの会員を擁する同好会に入会。月に一度、良質の音楽とおいしい食事、そして何よりビールを飲むのではないかと、という単純な趣旨のもと、毎月多くの会員で賑わう。そこで繰り広げられる話題は、大阪財界、いや日本財界の裏話や、政治、経済にいたるまで、止めどなく面白そうなく話題で埋め尽くされる。46歳にして入会している僕なんかは、古参会員からすればほとんど孫状態である。「若いなあ」と連発されるのも慣れてきた。



「社員増強委員会」に入る。

入 会してみて分かったのは、レトロな歴史的建築の中で、男性オンリー(一部同好会メンバーや同伴者には女性も存在するが)なる紳士倶楽部とは、やはり規律、規約そのものを楽しもうという、いわば「ジェントルごっこ」的な爽快感があるということなのだ。窮屈とは、実は気持ち良い。だからハリ・ポッターも気持ち良いはずである。何としても、大阪からこのジェントルごっこの灯を消してはならない。ピシッとした雰囲気こそが値打ちなのである。

そういうワケで、現在、大阪倶楽部は新規会員を大募集中である。入会には様々な規約が存在するが、そのあたりを楽しんでみたいという方はぜひ事務局に相談してほしい。まさに「島民」なジェントルマンは紳士倶楽部で「社交」すべきだと強く推したいのである。

◎入会に関するお問い合わせ
大阪倶楽部事務局 ☎0662318361

おためし 「定期購読」始めます。

ナカノシマ大学もスタートするなど、ますますパワーアップしていく『月刊島民』。ファンの方が増えていくにつれ、「遠方に住んでいてなかなか手に入られない」「先月はうっかり取り損ねてしまっ…」こんな声もちらほらと聞くようになりました。そこで、来年3月までの期間限定ながら、『月刊島民』の定期購読をスタートします。毎月、確実に読みたい方はぜひお申し込み下さい。

※来年4月以降も、みなさんの反応をうかがって検討していきたいと思っております。

- 料金
750円(月刊島民2010年1月号~2010年3月号/送料・手数料含む)
※12月25日(金)までにお申し込みいただくようお願いいたします。
- お申し込み方法
1. 郵便振替 口座番号:00990-5-299267
2. 現金書留 750円を同封し下記の宛先までお送り下さい。
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F 月刊島民プレス(株式会社140B内)宛
※ご入金を確認した時点で、ご連絡を差し上げます。
郵便振替の場合、手続きに2週間前後かかりますので、ご注意ください。
※諸事情により、到着が2~3日遅れる場合もあります。予めご容赦下さい。
※原則として、途中解約は受け付けておりません。
※ご記入いただいた個人情報は冊子・サービスをお届けするためだけに利用し、その目的以外での利用はいたしません。
- お問い合わせ 月刊島民プレス 定期購読係 ☎06-4799-1340





大阪マルシェ「ほんまもん」通信

vol.3
2009.12.1



平松市長が やつて来た!

10月31日、晴れ渡る空のもとで開催された中之島朝市に平松邦夫大阪市長がサブライズ視察に訪れた。職場である大阪市役所はすぐお隣とはいえ、初めてのマルシェ訪問だった平松市長。川をバックに色とりどりの食材が並ぶ光景には「これはすごいねえ」とお膝元の盛況ぶりに感激の様子。

一つ一つのブースをゆつくりと見て回った中でも、やはり気になるのは市内で作ら

れている食材が並ぶ「大阪市もん」だった。なにわの伝統野菜である天王寺かぶらのおひたしを味見しつつ、売り場にいられた生産者の声に熱心に耳をかたむけておられた。時には「うーん、ちよつと高いなあ」と笑って切り返すといったやり取りも。大阪らしい人情市場の雰囲気にご満悦の市長でありました。



都島区が日本に誇るハタ鉾泉の名(迷?)作。キムチ味のラムネを勧められて飲む一幕も。実にサービス精神たっぷりである。

大阪マルシェ&光のルネサンス 大阪屋台ほんまもん

このほか、大阪の地酒(当然、熱燗!)やホットワイン、甘酒、はちみつレモンなども販売する予定。大阪マルシェの熱くて旨いメニューが川べりの寒さを吹き飛ばします!



マルシェメニューあり

前号にて買い出しに来てくださった、中之島3丁目のイタリアン「ラ・クッカーニヤ」の今木彰宏シェフ。「市場よりも元気でですね」と一目惚れ。で、なんと大阪マルシェとの日替わりコラボメニューを作ってくれることに。

ラ・クッカーニヤ
☎06-6448-3336
火曜休



たとえばこの日は「泉州ファーム森の小屋」おすすめのレストランをバスターに。すりおろした皮と絞り汁をオリーブオイルと合わせ手際よく絡めると、あつという間にシチリアの郷土料理「スパゲッティ・アル・リモーネ」の出来上がり。洗浄ワックスを使っておらずそのまま食べられる食材だからこそできる料理法だ。

毎週土曜の中之島朝市にて食材を仕入れ、週末限定でメニューに取り入れてくれることに。

素材のパンチ力をそのまま活かす今木イタリアンとほんまもん食材の競演をぜひ。



うちも使ってみよう!
マルシェメニューやるよ

◎12月のほんまもんカレンダー

※小雨決行、荒天中止とさせていただきます。※開催時間は諸事情により、急ぎよ変更になる場合があります。
※主催者側では駐車スペースをご用意しておりません。なるべく公共交通機関をご利用下さい。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2		4	5 中之島公園 9:00~14:00
6 鶴見緑地公園 10:00~15:00			9		11	12 中之島公園 9:00~14:00
13 八軒家浜 10:00~15:00	14	15	16	17	18	19 中之島公園 9:00~14:00 八軒家浜 10:00~15:00
20 八軒家浜 10:00~15:00	21	22	23	24	25	26 中之島公園 9:00~14:00
27 靱公園 10:00~15:00	28	29	12月~25日は 大阪屋台「ほんまもん」 @中之島公園 17:00~22:00			

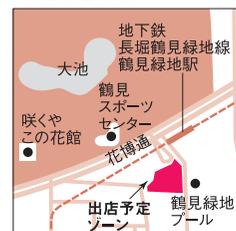
日曜日は
大阪市内各地で

土曜日は
「中之島朝市」!

[中之島公園・八軒家浜]



[鶴見緑地公園]



[靱公園]



カレンダー・生産者情報・出品物リスト・アクセス...
大阪マルシェの公式サイトができました!

www.osaka-marche.info

ちよと、隣のビルまで。

取材・文/若狭健作(本誌)

第13回

メリヤス

[Oldman coffee]@莫大小会館



旧き佳きビルで 海の向こうの 面影を伝える。

「昔、サンフランシスコで泊まったホテルのようだった」。若い頃からギターとサーフィンに熱中し、アメリカンカルチャーの洗礼を受けた濱口義典さんが探し当てた物件は、堂島大橋の北端にある昭和4年(1929)築の莫大小会館。アーチ状



店内に飾られた濱口さんのコレクションに、青春時代を思い出すPOPEYEオヤジも続出。

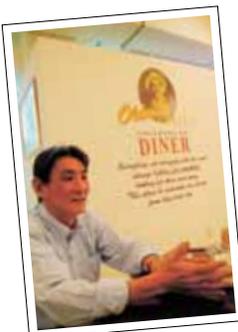
の窓とあずき色の渋い外壁、無骨で重厚なビルに魅せられ、2年前に「オールドマンコーヒー」をオープンした。

店内には、ランチを楽しむ親子連れ、商談中のビジネスマン、遅めのモーニングを食べる年配客など様々。ゆったりした店内でそれぞれの時間を過ごす様子は、映画で見るとようなアメリカンダイナーの風景だ。

「天井の高さが気に入った」という3メートルを超える高い壁には、愛用のサーフボードが立てかけられ、70年代のレコードが飾られている。「旧き佳きアメリカを再現したんです」とくれば、注文するのはもちろんハンバーガーだろう。バンズからはみ出るパテをほおぼり、たっぷり注がれたコーヒーを飲めば、気分はもう海の向こう、なんて言いたくなる。

ビルには他にも、雑貨店やアンティーク布地店、ギャラリー、建築やデザイン事務所など個性的なテナントが入居する。「設備では新しいビルにはかなわないけど、ここでしか味わえない温かみがありますからね」。

古きよきアメリカに魅せられた“old man”(ええオヤジ)が、福島のリトロビルで「変わらない渋さ」を伝える。



「最近ではカメラを持ったビル好きのお客さんも多いです」という濱口さん。今も休日には波に乗る現役サーファーだ。

Oldman coffee

もともとは大阪輸出莫大小工業組合があった会館。お隣のワインショップとの並びは、映画のワンシーンさながら。ハンバーガー(500円)だけでなく、日替わり(850円)などランチメニューも充実。9:30AM~8:00PM 日・祝休 ☎06-6458-8878



自家製パテにトマト、レタスを使ったハンバーガー。店の雰囲気そのままに、飽きのこないシンプルな味わい。

どこまでやっているの？
出品 出品希望！
うちでもマルシェをやってみよう...

お問い合わせはなんでも
マルシェ・ド・大阪テロワール実行委員会(事務局)
☎072・415・4500

大阪マルシェ「ほんまもん」出店者大募集!

大阪マルシェでは自慢の品を売ってみたいという気合の入った生産者の方を募集しています。
●単に売るだけでなく、こだわりを伝えられる
●新しい販路を見つけた
●第1回目の出店料は¥1000

まずは事務局までお電話下さい!



ドレスリング&タレ

福島の人気焼肉店「千成」がお客さんのアツい要望に応じて作った無添加ドレスリングと焼肉タレ。鍋物などあれこれ合わせたくなる味。



おにぎりセット

但馬の村岡米の新米を「おくら米穀」(福島区)がおにぎりに。同じく福島にある「黒屋」が作った鰯の佃煮とセットどうぞ。

味付けにも化学調味料は使っていないため、安心して食べられる。他にも有機無農薬で作られたブルーベリーを使ったジャムや国産小麦オンリーのようにん種などなど、大阪マルシェがキャッチフレーズに掲げる「安心・新鮮・正直・おいしい」ものばかり。「うちの近所にこんな美味しいものが」と驚く発見もあるのでは。

淡路島に泉州、丹波篠山など、大阪の都市部ではふだんあまり見かけない産品が並ぶ大阪マルシェだが、実は「大阪市産」もたくさんある。それがこの「大阪マルシェ」マークのある大阪市のええもん市場だ。

大阪市内とその近郊で穫れたものや、加工された食品が並ぶブースで、新鮮野菜からおかきやクッキー、さらにおにぎりまでバラエティ豊かな商品が並んでいる。たとえば大阪市天王寺区にある山田あられのおかきの原料は農法や管理法にまでこだわった国産米のみを使用。味付けにも化学調味料は使っていないため、安心して食べられる。他にも有機無農薬で作られたブルーベリーを使ったジャムや国産小麦オンリーのようにん種などなど、大阪マルシェがキャッチフレーズに掲げる「安心・新鮮・正直・おいしい」ものばかり。「うちの近所にこんな美味しいものが」と驚く発見もあるのでは。

元気です、「大阪市もん」

「ムニユ・ド・ノエル」より 牛フィレ肉のロッシェニ

イタリアの作曲家の名に由来する「ロッシェニ」は、牛肉とフォアグラ、そしてトリュフを合わせる贅沢なもの。フランスでも特別な機会にしか食べない伝統的な料理である。「ル・コントワール・ド・ブノワ」では、ジロール茸・ほうれん草・インカの目覚め(ジャガイモ)といった季節の野菜と一緒に。それぞれの素材の持つ旨みが濃厚に溶け合っている。

●プレゼントには「ブッシュ・ド・ノエル」
ダークチョコレートの中にはフランボワーズのムースが。甘酸っぱくすっきりとしていて、さらりと食べられる。外側にあしらわれたパリッとしたチョコレートも良いアクセントに。¥3,150(税込)
販売期間:12月22日(火)~25日(金)
※受け取り希望日の2日前までにご予約下さい。

ル・コントワール・ド・ブノワ

「ムニユ・ド・ノエル」 ¥12,000/¥15,000(税・サ別)
12月22日(火)~25日(金)までの特別コースです。
大阪市北区梅田2-4-9 プリーゼプリーゼ33F ☎06-6345-4388
11:00AM~2:30PM(L.O) 5:00PM~9:30PM(L.O) 無休



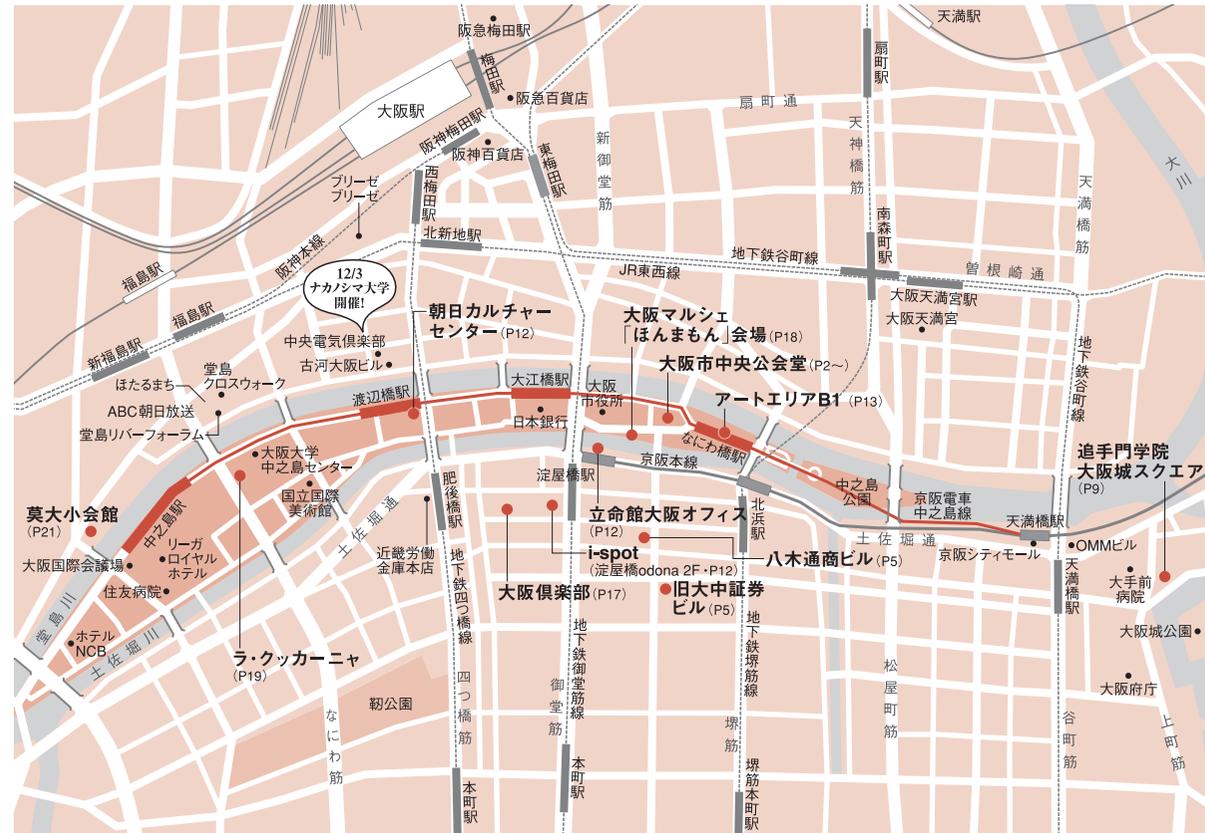
「料理の 65%は 食材で 決まります」

—アラン・デュカス



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
書店：ブックファースト梅田店/旭屋書店 本店/旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/ジュンク堂書店 大阪本店/ブックファースト 淀屋橋店/文芸堂書店 淀屋橋店/福家書店 淀屋橋店/天牛亭書店 大江橋店/旭屋書店 本町店/ジュンク堂書店/アパルティBC OMMビル店/紀伊國屋書店 京橋店/隆祥館書店/なんば書店カルチャーコーナー
公共施設・大学関連施設ほか：大阪市中央公会堂/府立中之島図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪市立中央図書館/大阪歴史博物館/大阪狭山市立図書館/奈良県立図書情報館/大阪国際会議場/市立住まい情報センター/大阪商工会議所/大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪企業家ミュージアム/味の素 食のライブラリー/朝日カルチャーセンター/大阪大学中之島センター/大阪大学本部/大阪大学21世紀構想堂/摂南大学地域連携センター/慶應大阪リバーサイドキャンパス/追手門学院 大阪城スクエア/追手門学院 大手前センター/専門学校中の島美術学院/大阪工業技術専門学校/ろうきんギャラリー心齋橋/大阪倶楽部/芝川ビル/N4タワーマンションパビリオン/ホテルNCB/ABC朝日放送/大阪フィルハーモニー会館
店舗・医院など：江戸前焼料理 志津可/ラ・クッカーニヤ/アリアスカ マーブルトレ/MANGUEIRA/Girond's JR/しろう亭/ミニジロー/黒門さかえ/花かつ/ティーハウスミュージカ/MJB 珈琲/平岡珈琲店/アンドール本町本店/あじさい/BAR THE TIME 天神/タバーン・シンブソン/バスターレ/LES LESTON/大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階/ペンインレブ大阪証券取引所/吉田理容所/たまがわ鍼灸整骨院/宮崎歯科/心齋橋山田兄弟歯科/東郷歯科医院/ネイルサロンスワンナ

バックナンバーお譲りします。

昨年8月に創刊した『月刊島民』。大きな支持をいただいていることは、「バックナンバーありませんか?」と月刊島民プレスを訪ねてくる方々の多さからも伝わってきます。さて、そのバックナンバーにつきましては、1冊につき100円をいただくこととなりました。号を重ねていくうちに保管用のスペースが必要となり、そのための維持管理費を負担していただく形です。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。お問い合わせは下記の電話番号まで。

次号予告 中之島に住んでみる?

ここ数年、中之島にはタワー型の高層マンションがどんどん建設され、住む街としての注目度も高まってきた。古ビルをうまく活用する若手ユニットから、町内会的な雰囲気のマニッシュ自活会まで、そんな中之島の「住」の側面をクローズアップしてみよう。

●『月刊 島民』vol.18は2010年1月1日発行です!

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

トウミン月報

2009年12月1日発行

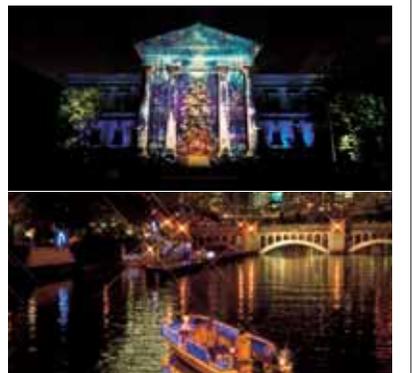


冬と言えば 光のルネサンス

もちろん、みおつくしプロ

すっかり大阪の冬の風物詩的存在となった「OSAKA 光のルネサンス 2009」が今年も開催される。約138万人(!)を動員した昨年は中之島エリアにも会場を拡大して行われたが、今年

さらにバージョンアップを遂げている。毎年人気を博す大阪市役所前のツリーは、今年は庁舎の壁面に映し出されるイルミネーションツリーに変身。今回のメインイルミネーションと



OSAKA 光のルネサンス 2009
期間/12月1日(火)~12月25日(金)
メインパフォーマンスは12月12日(土)~12月25日(金)
※12月1日(火)~12月11日(金)は、「スターライト・シティ・スクエア」「中之島イルミネーションストリート」の点灯のみ。また、12月12日(土)は、点灯式開催のため、全体の点灯時間変更になる可能性があります。
会場/大阪市北区中之島一帯(大阪市庁舎前、みおつくしプロムナード周辺、大阪市中央公会堂~中之島公園、大阪市立科学館北側公共広場など)
<http://www.hikari-renaissance.com>

して登場する。また、水都大阪2009を機に整備された大阪市中央公会堂周辺のエリアでは、フランスの都市景観を感じさせる「フランス・デ・ルミエール」が登場。シャパンをテーマに白と金を基調とした光による演出や、様々なフランス食材が楽しめる。

「水と光の饗宴がテーマであるイベントにとって中之島は絶好の場所。周辺ビルや橋などのライトアップが進むなど、光の広がりも年々進んでいる。来場者の安全を最優先で確保しつつ、見るだけでなく、市民、企業、来訪者などがみんなで作り上げるイベントとしていきたい」と実行委員長の北野剛人氏。

ウイスキーの樽をイメージしたという佐治敬三記念ホールでのフォーラムは、まずコディネット役の高島幸次大阪大学招聘教授(右写真)のあいさつから始まった。「大阪は商業都市のイメージが強いが、難波宮があった古代に

11月3日、大阪大学中之島センターにて「第21回 京阪・文化フォーラム」が開催された。今回のテーマは「学問都市・なにわ」。懐徳堂の歴史を紐解いたり、町人学者の代表格・木村兼葭堂について語られると聞けば、島民編集部としては聞き逃さないものであった。



学問都市・大阪を学ぶフォーラム

さらにその後、橋爪節也大阪大学総合学術博物館教授によって、江戸時代中期に名を馳せた木村兼葭堂についての講演が。とにかく多岐に亘る木村の興味分野を例にとりつつ、「職業としてではないからここで自由に学ぶことができた」と「大阪的な知性」の特徴を提示。懐徳堂や適塾での学生たちの自由な勉強のスタイルを思い出し、深く頷いたのがあった。(大迫 力・本誌)

大学助教の池田光子氏により、懐徳堂の歴史やそこで学ぶの様子を紹介された。は政治都市、中世には石山(大坂)本願寺を擁する宗教都市、近代は工業都市と姿を変えてきた。これほどまでに性格を変える都市は他に例を見ない」と説明。続いて大阪

楠葉けい子、18歳。
わたし、4代目おけいはんです。



京阪電車樟葉駅
楠葉けい子(大學生)

おけいはんの新発見

新・おけいはん、はじめます。

新しいどこかに出かけたり。新しいだれかに会ったり。

はじめは、どうしてこんなに胸がドキドキするんでしょう。ちょっと不安、とっても楽しみ。

そんな気持ちでいっぱい、わたし、おけいはん4代目。いろんなことに会って、見つけて、

少しずつ成長していきたいな、と思ってます。みなさま、よろしくお願ひします。

京阪の
おけいはん

おけいはん 検索

www.okeihan.net